

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070100989		
法人名	株式会社友愛エアシステム		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地 (電話番号)	北九州市門司区青葉台6-1 (電話) 093-371-1208		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年6月25日	評価確定日	7月20日

【情報提供票より】(平成19年6月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算	5.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1~2階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2.5年)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(平成19年6月16日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 83歳	最低	77歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	せのお内科循環器科医院・健和会大手町病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム友愛は、門司区の高台に位置する閑静な住宅地にあり、周辺は緑も多く住環境に恵まれている。グループホームの代表者は、地域密着型サービスとしての展開を図るために、平成19年度は、町内会会長・校区自治会の役員を担い、地域との連携を高める努力をしており、地域の方が相談に来られる機会も増えている状況がある。今後の入居者の重度化に向けて機能維持を含め、運営推進会議などの機会を活かし、ターミナルケアの検討を図っていききたいと考えている。今後は、さらに地域や他の事業者とのネットワークづくりを推進していくことを目標としている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開かれたグループホームとして、閉鎖的にならないように地域や他の事業者とのネットワーク化を図ることが課題となっていた。また、重度化に伴い機能維持を図っていくことが課題として挙げられていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の際には、職員と意見交換を行い、ケアサービスや業務の内容を振り返ることができ、外部評価の結果と合わせて改善に取り組むようにしている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	グループホームの理解を育みながら、ホームの運営方針や活動状況の報告を行い、地域の方々には、ボランティアの協力をお願いするなど、運営推進会議の機会を活かした取り組みを行っている。今後は、入居者の重度化に伴い、ターミナルケアの検討など、新たな課題に向けてテーマを絞り、運営の推進を図っていききたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	2、3ヶ月に1回、定期的に便りを発行し、日常生活の様子やお小遣い収支・健康状態などを連絡している。苦情相談の窓口として、意見箱を設置している。日常的には、家族の訪問時に意見交換を行い、入居者の意向や家族の意見を吸い上げるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	平成19年度にグループホームの代表者が町内会会長に就任し、校区の自治会の役員も兼務し、地域との連携を高める努力をしている。今後は、地域行事の参加を含め、地域住民との日常的な関わりを深めていききたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は、地域密着型サービスの役割として地域との関係性が重視されており、ホームの理念の中には、「地域の人々など、手をつなぎ歩んでいきます」と掲げている。また、入居者の尊厳を護るケアや介護力の向上も理念に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、一つひとつのケアが職員間で理念にかなっているか、確認しながらサービス提供に努めている。対応に困難な場合があれば、対策を職員間で検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同じ地域に暮らす立場で、平成19年度は、ホームの代表者が町内会会長及び校区の自治会役員の役割を担うことになり、地域との連携を高めながら、魅力あるまちづくりに取り組んでいきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の際には、職員と意見交換を行い、ケアサービスや業務の内容を振り返ることができ、外部評価の結果と合わせて改善に取り組むようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの理解を高めるために運営方針や活動状況の報告を行っている。地域の方々には、ボランティアの協力をお願いするなど、運営推進会議を活かした取り組みを行っている。また、重度化に向け、ターミナルケアの検討など、運営推進会議の機会を活かした取り組みをテーマとして取り上げ、取り組んでいく方向にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市社会福祉協議会を通じて、介護サービス相談員を受け入れ、入居者の話し相手や相談相手になっている。		入居者の重度化の問題を抱えているが、事業所だけで抱え込まずに、運営推進会議以外で地域包括支援センターとの連携を深め、課題解決に向けて取り組むことが求められる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	利用者の中には、権利擁護や成年後見制度を活用している人がおり、情報提供を含め支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2、3カ月に1回、定期的に暮らしの様子や金銭管理・健康状態を報告している。		今後は、職員の異動があった場合には、新任の紹介や挨拶文などで、異動などの報告を行う予定である。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先には、苦情相談のポスターを掲示すると共に、ご意見箱を設置し、意見や苦情が言える環境を提供している。また、月2回、介護相談の受け入れを行っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ、異動や離職はないが、職員が代わる際には、入居者のダメージを最小限に抑えるために、引き継ぎの面で努力している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に当たっては、性別や年齢など採用対象から排除していない。採用に当たっては、人間性を重視し採用している。職員に働きやすい職場環境の提供を行うと共に、自己実現のために社会福祉士など資格取得を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	公民館や市民センターでの講習会など情報収集を行い、参加するようにしている。		人権教育に取り組んでおられるが、認知症の高齢者の人権教育に今一步踏み込んだ講習会や勉強会の参加が求められる。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	社会福祉士などの資格取得を支援しており、職員のステップ・アップのために外部の講習会や勉強会に参加する機会も提供している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	他のグループホームの見学に行ったり、勉強会に参加し交流を持つなど、事業者同士協働しながら、質の向上に取り組んでいる。		門司区における複数のグループホームとの交流に取り組むことを目標にしている。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、馴染んでいただくために、グループホームへ通っていただき、慣れた段階で宿泊する体験入居を行っていただくなど、徐々に馴染めるよう支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者一人ひとりの趣味や特技が活かせるように、食事の場面では、配膳・お茶碗洗いの役割を担っていただき、掃除・洗濯物たたみ・活け花なども、力を発揮していただいている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者の言葉や言葉にしづらい思いを、顔の表情や行動パターンによって汲み取るようにしているが、入居者の思いなど、さらに掘り下げた取り組みが求められる。		入居者の意欲の低下がみられ、思いや意向の把握が難しくなっている。定期的にアセスメントを行い、入居者の意欲を高める介護計画の見直しを図っていくことが求められる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者の希望や意見、家族の意見をふまえ、介護計画に反映できるように取り組んでいるが、入居者の意欲の低下により、意向に即した介護計画の作成が難しい状況にある。		介護計画には、意欲を高めるために心がはずむことを引き出すなど、個別の対応が求められる。食事の場面における家事の主役など、暮らしの中での能力を発揮できる役割を見つけ支援していくことが求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的に6ヶ月ごとの見直しを行っている。状態変化が生じた場合には、その都度、入居者・家族・関係者と話し合い見直しを行っている。		入居者の意欲を高めるために、介護計画においては、短期の目標設定が求められる。介護計画の具体的な支援を明確化することが必要である。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者の要望に応じて、買い物・友人宅への訪問・墓参りなど付き添い、臨機応変かつ柔軟に支援している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	基本的に入居者にかかりつけ医がいる場合は、受診を継続できるように支援している。かかりつけ医がいない場合は、当ホームの主治医に受診できるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	終末期に向けて看取りの指針を作成しているが、取り組みの事例がなく、今後の取り組みとして課題になっている。重度化した場合の対応のあり方など、できるだけ早い段階での関係者の方針の統一を図っていく必要がある。		看取りの指針を作成しており、今後は、医師・看護師を交えて終末期における医療処置など関係者間で具体的支援を話し合っていくことが求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々のケアの中で、入居者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、日々のケアを振り返ることが求められる。		勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方など、再度点検が求められる。
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	事業所のスケジュールに合わせるのではなく、入居者の暮らしをどのように希望にそって支援しているかが求められ、入居者の「その日」にしたいことを把握し、入居者のその日の望みを知ることを大切に、柔軟に支援することが望まれる。		例えば、寝坊する、特に病気でなければ晩酌を楽しむなど、入居者の希望にそった柔軟な支援が求められる。
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事を楽しむために、材料の皮むき・ゴマすりのすり鉢すりなど、食事やおやつの下準備を手伝っていただき、「食」を通じた楽しみを支援している。また、季節毎に外食を楽しむことにしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴の希望を聞いたところ、昼間の入浴希望が多く、昼間の入浴が中心となっている。夜間の入浴の希望があれば入浴できるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の趣味や特技を活かした楽しみごとや全員で楽しむ行事など、暮らしの目標やメリハリをつけるために行事計画書を作成している。		職員側がプログラムした内容を入居者にさせている段階にとどまることなく、入居者の習慣・希望・有する力をふまえて何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握し支援することが求められる。
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	散歩や買い物は日課として取り組んでおり、一時的な帰省やドライブなど外出を支援している。また、公民館や市民センターへ出向き、地域の方々との交流を図っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	鍵をかけないケアを原則としているが、入居者が他の居室へ不法侵入するなど、他の入居者のプライバシーを確保するためにやむなく鍵をかける場合が生じている。家族には状況を説明し、了解を得ている。		入居者の問題行動に関して、職員間で問題の共有化や原因の究明を行い、課題解決に向けて取り組む必要がある。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に1回消防訓練を実施しており、今年度は、昼夜の2回行う予定である。近隣住民の協力も得られている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養摂取は定期的な採血でチェックし、体重測定も定期的に行っている。水分摂取は、午前・午後・入浴後に行い、夜間はペットボトルの飲料を準備している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は広く、横には和室があり、掘こたつ風のテーブルがあり、ゆっくりとくつろげる環境を提供している。また、入居者と職員の手作りのカレンダーが貼られ、行事の写真などもあり、家庭的な環境づくりを行っている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には、仏壇やテレビなど使い慣れた家具や調度品が持ち込まれ、個性豊かな空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			